

久慈農業改良普及センターだより



普及センター情報 230号

平成23年 2月 24日発行

久慈農業改良普及センター

TEL : 0194-53-4989 FAX : 0194-53-5009

普及センターホームページは検索画面で..

久慈農業改良普及センター 公式

検索

○いわて山形村短角牛の魅力を実需者や消費者にPR○

～短角牛生産者らが「短角牛生産地見学ツアー&食事会」を開催しました～

久慈市の短角牛生産者らによる研究グループ「奇跡の短角牛(きせきのうし)」は、平成19年度から新メニュー開発やポスター作成等によって「いわて山形村短角牛」のPRを行ってきました。

今回、より多くの方に短角牛の魅力を感じて頂くために「実際に短角牛を食べてもらう機会をつくりたい!」との思いから、「新規就農者ネットワーク活動支援事業」を活用し、「短角牛生産地見学ツアー&食事会」を2月6日に開催しました。このイベントは、盛岡市内の飲食店「欧食酒堂 da Cotta」と連携して開催し、昼は久慈市山形町の短角牛飼育農場を見学するバスツアー、夜は短角牛づくしのメニューを楽しむ食事会を行いました。

バスツアーには約30名の飲食店関係者や一般消費者が参加し、牛舎を見学しながら飼育方法や短角牛の特徴について生産者から説明を受けました。また食事会には約40名が参加し、短角牛を使ったメニュー8品が出され、赤身肉の旨みや、部位による味の違いを楽しみました。

なお、「奇跡の短角牛」では3月に首都圏での短角牛PR活動も予定しています。



食事会でも、生産者らが短角牛の魅力が大いにPRしました

○革新技術と耕畜連携で新たな水田営農に手応え○

～久慈地方低コスト水田営農研究会が今年度の実績検討会を開催しました～

久慈地域で水田営農の収益性向上を目指して活動している「久慈地方低コスト水田営農研究会」が、今年度の活動成果を検討するため、2月17日に実績検討会を開催し、研究会員・関係者ら35名が参加しました。

研究会ではこれまで、稲作の効率化を目指した直播栽培や水口流入施肥等の省力・低コスト化技術の導入実証や、飼料用稲の生産を通して、地域内の資源を有効に活用するための耕畜連携システム確立実証を実施してきました。

実績検討会では、まず、今年度実施した実証結果が報告され、調査データや実証を担当した研究会員(稲作農家、畜産農家)の感想・意見をもとに1年間の成果を確認しました。研究会員は、飼料用稲生産と耕畜連携システムの重要性を実感し、革新技術の導入によって、その効果がより大きくなることを感じて、手応えと課題、その解決策といった様々な意見が出されました。

研究会では実績検討会での検討結果をもとに、久慈地域の水田営農のさらなる発展を目指して実証試験や研修等の活動を継続していきます。



研究会員(農家)からも様々な意見が出され、有意義な検討会でした

○久慈地方農業振興大会を開催○

2月10日、久慈地方4市町村の農畜産物の生産者約450人が参加し、「久慈地方農業振興大会」が久慈市(プランドール)で開催されました。この大会は昨年度から始まり、今回が2回目となるものです。

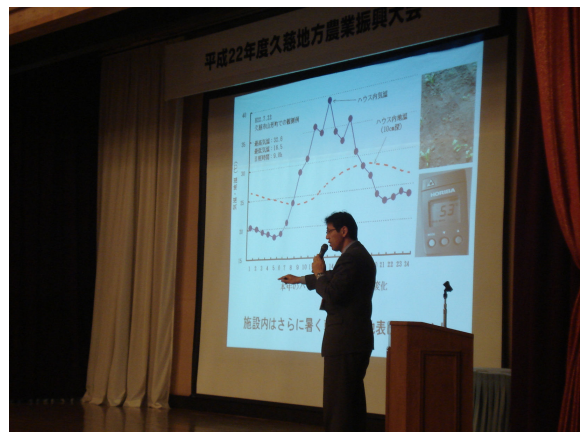
当日は、久慈地方農業表彰を始め、園芸生産拡大者表彰、畜産優秀者表彰などの各表彰が行われました。受賞者を代表して久慈地方農業表彰「明日を拓く担い手賞」を受賞した久慈市の菌床しいたけ生産者である大鹿糠正行さんが謝辞を述べました。また、大会決議として「安全・安心な農畜産物の提供に努め、それぞれが目標を持って生産に取り組み、団結し、更なる産地拡大に努める」ことを洋野町の畜産農家である下館岩吉さんが力強く宣言しました。

昼食後、久慈農業改良普及センターの高橋好範上席農業普及員が、ほうれんそうの「V字回復作戦」と題して暑熱対策について事例報告を行いました。

午後は、(株)ナチュラルアートの鈴木誠代表取締役を講師として「これからの農業について」と題した講演が行われました。今までの地域の枠組みや農業のやり方を大切にしながらも、様々な人と連携するプラスアルファの取組によって、気候・経済・社会など農業を取り巻く環境の変化に対応していけることなどを熱く語っていただきました。参加した生産者のみなさんも大いに元気とやる気を得たようです。



大会決議の宣言



ほうれんそう V字回復作戦



参加された皆さん



ナチュラルアート鈴木代表
「TPPに反対という姿勢は構わない。それでも対策は準備しておきましょう。」